

北海道から 岩手県へ

氏名 増田 望

北海道拓北養護学校 → 岩手県立釜石祥雲支援学校

(期間：平成31年4月1日～令和3年3月31日)

釜石祥雲支援学校は

岩手県沿岸南部に位置し、病弱、肢体不自由、知的障がいの児童生徒が通っています。小学部21名、中学部12名、高等部28名、そして分教室9名（中学部1名、高等部8名）、計70名の児童生徒が在籍し、高等部校舎は釜石高等学校校舎内に置き、本校舎と高等部校舎の2校に加えて、隣接する国立病院機構釜石病院にはしゃくなげ分教室があり、3ヶ所の学びの場で教育活動を行っています。



「希望」「健康」「自立」の校訓のもと、「一人ひとりの力を最大限に伸ばし、心豊かに、生き生きと生活できる人間を育てる」を教育目標として掲げ、目標を実現するために、保護者や関係機関との連携を大切にしながら教育実践と進路指導の充実に努めています。また、様々な研修により専門性の向上を目指すとともに、地域における特別支援教育のセンター的機能を担う役割も行っていきます。

本校のPTA活動では、10年前の東日本大震災津波の発災以降、保護者の心に寄り添う茶話会や研修会の継続した取組が行われていて2年前には、優良PTA文部科学大臣表彰がなされるなど、児童生徒の心のケアに心を配る復興教育をはじめとした活発的なPTA活動がなされています。本校は学校・病院・家庭を基盤として、明るく、強く、たくましく生きる児童生徒の育成を目指した教育活動を行っています。

1 派遣先の学力向上等の取組

地域に根ざし、地域に貢献する生徒

○地域の特色を生かした作業学習～地元酒造会社とのコラボレーション

- 釜石祥雲支援学校高等部では、「地域」とのつながりを最も重視しています。作業学習では地元酒造メーカーが販売する日本酒のラベルやコースター、土鈴を10年前から地元釜石の酒蔵会社とコラボレーションして取り組んでいます。
- 紙工班では、お酒の瓶に貼っているラベルを、釜石の海産物であるカレイ、ホタテ、エビ、鮭、タコ、イカをモチーフにした生徒が描いたイラストを紙すきに転写したオリジナルデザインラベルを作っています。
- 工芸班では、釜石の伝統芸能「虎舞」をモチーフにした土鈴や、小鉢、湯飲み、お皿、ぐい呑みを作っています。



- ・手芸班では、工芸班が作った虎舞の土鈴に使う紐を組紐として作業学習の中で作っています。

○多様な販売方法

- ・作業学習で作った作品を釜高祭や学習発表会の販売会や地域の商業施設等にも置かせていただき、学習活動の一環として、販売活動をしており、将来的に地域で働く生徒達の意欲や自信の向上につながっています。



○地域の企業に評価される多様な取組

- ・岩手県では、卒業後の就労や充実した生活に向け、企業・関係機関の生徒理解や実習及び雇用機会の拡大を目的として、実際に生徒の技能種目を見ていただき、働くために必要な技能や態度、意欲等、客観的な評価をいただく取組を4年前から行っています。本校生徒も認定に向け、作業学習をはじめとした技能を磨いています。
- ・年に一度開催される岩手県特別支援学校技能認定会で、日頃の学習の成果を披露する機会をとおして、働くために必要な精神面を高めています。

○他者への礼儀や、自発的に活動する力を高める生徒指導

- ・釜石高校校舎には全日制と定時制があり、約500名の生徒が在籍しています。登校前後のバスの中や校舎の廊下等、様々な場所ですれ違うことがあります。高等部の「働く人になるために」の合い言葉に、挨拶できる人という目標があり、挨拶や礼儀などの指導に重点を置いています。生徒達は、日頃から進んで挨拶する経験をとおし、販売活動の中でも、実際に働く職場をイメージすることができています。このような取組の中で、生徒たちに働く意識や社会人としての心構えが高まり、高い就労率につながっていると感じました。



2 北海道に戻って実践したいこと

○教科指導において

- ・教科学習において、「自分の見た岩手について」を教材化し、生徒達の興味・関心を引き出していきたい。
- ・地元の北海道の特色と岩手など、地域の特色との比較などを取り入れ、児童生徒が地元への誇りや地域とともに生きていこうという意欲や関心を深めていきたい。

○生徒指導において

- ・誰にでも挨拶できる児童生徒を育てるために、その必要性を学習できるようにするとともに、自らが地域の人、見ず知らずの人への挨拶を継続し、手本となることを実践していく。
- ・児童生徒の心のケアやコミュニケーション能力を高めていきたい。

○地域との連携について

- ・北海道の地域性を考慮し、学校としての地域への共通理解と教職員一人一人の創意工夫による教育活動の積み重ねが必要であると考えます。教育は保護者と地域の人とともに創造するものだという観点から「地域とともにある学校」を再認識し、特色ある学校づくりのために児童生徒の自立と社会参加を目指せるよう、地域との連携を積極的に行っていきたい。